

Utsunomiya
Museum
of
Art

宇都宮市の芸術文化活動の拠点、 市民の憩いの場となる美術館。

宇都宮市内中心部から車で約30分。郊外にある、緑豊かなうつのみや文化の森敷地内のなだらかな丘に位置する宇都宮美術館は、宇都宮市の市制100周年を記念して1997年に開館した市立美術館である。既に市内には図書館や音楽ホールなどの文化施設が存在していたため、美術館を作るという声が上がったのだ。同館のコレクションは市が所蔵する既存の作品を展示するのではなく、基本構想段階でコンセプトを決めて収集したもの。やきものや工芸品が盛んな栃木県だが、21世紀を迎えようとしていた時期でもあり、20世紀に一つのジャンルとして概念が確立していったデザインをコレクションの軸に据えた。当時はデザインを専門として扱う美術館はまだ少なかったからでもあった。もちろんデザインだけではなく、20世紀以降の、フインアートと呼ばれる絵画や彫刻、特に近現代に時代を絞ったコレクションも充実している。

宇都宮美術館の建物は、近現代のアー

ト全般を紹介する施設にふさわしく、モダン性に溢れている。1919年にドイツから始まったバウハウスをイメージした建物だ。バウハウスは、工芸・写真・デザインなどを含む美術と建築の総合的合理主義的・機能主義的な芸術である。すっきりとしたシンプルな外観は正統的なモダニズム建築。設計を担当したのは、日本のモダン建築の代表格のひとつで、宮崎県立美術館、北海道立三好太郎美術館などを手がけた岡田新一だ。現代性を保ちつつも自然に溶け込むように建物の主張を抑さえ、丘の緩やかな起伏の中に収めた2階建ての低層型となっている。1階で完結する館の展示室は3部屋からなり、年に5〜6回の様々な企画展と、宇都宮ゆかりの画家や国内外の20世紀以降に制作された所蔵品を中心としたコレクション展が開催される。

市立の美術館らしく、市民に親しまれやすく堅苦しくない、誰でも親しみやすいアートを紹介する宇都宮美術館に行ってみよう。

宇都宮 美術館

